同窓会報

鳥羽商船同窓会
三重県鳥羽市池上町1番1号
郵便番号　517-8501
TEL　代表 鳥羽(0599)25-8000
FAX　鳥羽(0599)25-8016
振替番号　00850-6-846

同窓会創立80周年記念総会特集号

斉主祝詞奏上

斉主お払い

会長追悼文奏上

総会における山田新校長挨拶

総会における会長報告

会計監査報告

本部報告

平成一七年度　本部総会

平成一七年度本部総会は、同窓会創立八〇周年記念総会として六月一二日（日）午前一一時から母校の視聴覚教室に於て開催されました。

来賓に本年四月に就任された山田猛敏校長と事務部長代理として桐山元位庶務課長をお迎えして、落合会長を含む一〇一名の会員が出席されました。

総会次第に従い、斉藤隆副会長の開会の辞に続き、落合会長が同窓会創立八〇周年を祝う挨拶をされ、神戸で開催された創立六〇周年と名古屋で開催された七〇周年記念行事は参加者も多く盛大に挙行されたが、八〇周年は出席者数を考慮してつつましく行うことになったことを報告された。また、挙式にあたり近藤真琴翁碑周辺の除草と植樹の整備をしたこと、独法化後の母校は五年毎の外部評価がなされるため、今後より一層母校を支援することを報告された。

続いて山田猛敏校長が挨拶をされ、同窓会創立八〇周年を迎えたことへの祝辞と、昭和の年代と同一の激動の時代に発展し、多くの優れたリーダーを海運界に輩出してきた同窓会への賛辞を述べられた。

そして、自己紹介と四月に校長に就任以来の学校の近況と、今後の課題と抱負を約二〇分間にわたり詳細に報告されました。

総会次第

一、開会の辞
二、会長挨拶
三、学校長挨拶
四、議事
イ、平成一六年度会務報告
ロ、平成一六年度会計報告
ハ、会計監査報告
二、役員の改選
五、新会長挨拶
六、議事
イ、平成一七年度事業計画
ロ、母校将来問題について
ハ、その他
七、支部報告
八、閉会の辞

出席した会員は、校長の誠実なお人柄に接して、熱心に拝聴しました。

次いで、以下に掲載の議事に入り、落合会長が会員に配布した総会資料を約三〇分間説明し、本部提出案が全員に了承されました。

なお、時間の関係上、支部報告は鳥羽国際ホテルでの祝賀会で行われました。

また、（社）全日本船舶職員協会の川村赳会長から、次の祝詞を賜りました。

「創立八〇周年おめでとうございます。

貴会のご功績に敬意を表するとともに、今後一層のご発展と皆様のご健康をお祈りいたします。

平成十七年六月吉日」

同窓会 会長挨拶

落合　弘明

皆さん今日は、お暑い中遠方より多数ご参集下さいまして誠に有難うございました。また、校長先生と庶務課長には休日にもかかわらず私どもの総会にご隣席賜りまして厚く御礼申し上げます。

大正十四年に、神戸において、「鳥羽商船倶楽部」が発足しまして、今年で八〇年になります。昭和五八年には、同窓会発祥の地「神戸」において、盛大な「創立六〇周年記念総会」がニューポート・ホテルにおいて開催され、サンバのリズムで全員が祝賀会場を練り歩いたことを思い出します。

また平成七年には名古屋港を出港した太平洋フェリーの〝いしかり〟船上において、家族同伴の大クルージング・パーティを伴う「創立七〇周年記念総会」を開催し、六〇〇杯用意した生ビールが八五〇杯も消費され、私が懇意のフェリー会社の社長さんに泣き付いたことを思い出します。

今回「創立八〇周年記念総会」を迎えるに当りましては、四年前に母校の「創基一二〇周年記念事業」に大人的に協力したことから、すこし押さえ気味に開催することが決定され、今日を迎えたことになります。お家族を含めて一一一名の方がご参加賜りまして慰霊祭も無事終わりまして、後は総会が円滑に推進出来ればと願っております。

母校も念願の「専攻科」の設置が認可されまして、工業系については、すでに授業が進んでおります。一〇月には商船系の「専攻科」も発足いたします。後程校長先生からも詳しいお話があるとおもいますが、大学と同格の「専攻科」が開設されましたことは、母校は南勢地区における理工系の最高教育機関としての地位を築くことでありまして、私ども卒業生にとっても何よりの喜びであります。

ご承知のとおり、わが国及び世界における自然災害の猛威はすざましいものがあります。母校も「東南海地震」対策一環として、校舎の補強工事が実施されると伺っております。また法人化によって、母校の新しいシステムのもと運営が展開されておりますが、私ども卒業生はあらゆる面で母校に協力する体制作りが必要になります。すでに工業高専では卒業生と母校が一体となった研究システムの構築を行なっているところがあります。

「創立八〇周年記念総会」を母校で迎えるにあたり、近藤先生記念碑周辺の環境整備を行い、どの高専にも負けない雰囲気作りを実施しました。今後も母校の環境整備には積極的に協力する方針でまいりますので、どうかよろしくご協力下さい。なお、本年は「新会員名簿」及び「鳥羽商船同窓会八〇年の歩み」も発刊されます。皆さんの手元にぜひ一冊ずつ置いて頂けますようお願いいたします。

総会のあとお楽しみの祝賀会が用意されております。お馴染みの鳥羽の「九鬼水軍太鼓」やジャズバンドによる華やかな演奏がございます。総会が円満に時間どおり終了しますことを祈りまして私の挨拶とします。

校長挨拶

山田　猛敏

鳥羽商船同窓会創立八〇周年記念行事が多数の会員のご出席のもと、盛大に挙行されますことは真に意義深く、ご同慶の至りに存じ

ます。八〇年の歳月と申せば昭和の歴史そのものであり、戦前、戦中そして戦後の我が国の激動期、復興発展期を通じて数多くの有能な同窓が海運業界、関連産業界で活躍されてきた事実があります。

さて、先ほど近藤真琴翁碑前での慰霊合祀において玉串を捧げ、また記念総会において本校の動静を会員の皆様にお知らせする機会をいただきましたことに感謝申し上げます。三月末にて退任された佐藤修臣前校長の後任として四月初めに着任しました。先ず、簡略に自己紹介をさせていただきます。東京商船大学航海学科を卒業し、同大学で四〇年半に亘り教育研究の生活を送り、教育担当副学長の職を経験致しました。これまでの経験をもとに長い伝統と実績のある本校の益々の充実と発展のために努めようと決意を新たにしたところであります。

次に本校の動静をお知らせします。学科入学式が四月一一日に第二体育館において行われ、商船学科四八名、電子機械工学科四六名、制御情報工学科四五名、合計一三九名の一年生を本校に迎えました。また専攻科入学式が翌四月一二日に百周年記念資料館会議室にて行われ、生産システム工学専攻に一一名の学生が入学しました。この内訳は男子九名、女子二名であり、今春三月の学科卒業生が七名、一年前の卒業生が一名、二年前の卒業生が三名となっています。この専攻科は既にご案内のように昨年度秋口に設置の申請がなされ、（独）大学評価学位授与機構によるカリキュラム、教員組織等の審査の結果、平成一七年度から認定専攻科の設置が決定されたものであり、五商船高専が同時に開設の運びとなりました。海事システム学専攻は定員四名、一〇月入学であり、生産システム工学専攻は定員八名、四月入学です。専攻科生の学士学位については、二年次の後半に入って直ぐに学位授与機構へ申請し、面接、試験等による審査を経て修了一ヶ月前に決定されることになります。開設に伴い、教授定員一名がつきましたので情報ネットワーク工学の分野で教員を公募中であり、さらに平成一八年度に向けて専攻科棟の建物新営を概算要求いたします。

また施設営繕工事関係では一号館校舎の改修予算がつき、懸案であった耐震改修工事と教室の狭隘解消工事が六月下旬に着工され一〇月末に完成の予定であり、安全性と快適性の環境改善がなされます。さらに引き続いて二号館校舎の耐震改修予算を平成一八年度に向けて要求してまいります。

つぎに（独）国立高等専門学校機構（以下、機構という）のもとに全国五五高専が法人化されて一年経過しました。予算は運営費交付金として示達されますが、業務効率化係数として毎年一%減がかかり、これが五五高専で年間五億円にも相当し単純平均しますと、一高専につき九〇〇万円にもなります。従いまして本年度の校内予算配分方針におきましては、光熱水料の節約として特に夏季のエアコン電力のデマンド管理（最大電力抑制のための平滑化使用）、事務経費（ゼロックス等）の節約、教職員および学生のクリーンキャンパス作戦等による環境整備費の節約さらには科学研究費、教育的競争資金、民間共同連携研究等による外部研究資金獲得等を進めていただくことにしています。

機構自体も文科省の（独）評価委員会から法人評価を受けることになりました。全国五五高専が提出した平成一六年度業務実績評価報告を機構の事業報告として取り纏める作業も終わり、七月上旬には評価を受け、結果が公表される予定です。そして既にご案内のとおり、学校教育法の定めにより認定評価機関としての（独）大学評価学位授与機構から三年の間に五五高専各校が高専評価基準によって機関別認証評価を受けます。評価の目的は、定期的に教育研究活動水準の質の保証と向上を図り、評価結果のフィードバックを自主的改善に役立て、運営状況について広く国民の理解と支援が得られるように説明責任を果たしてゆくためであるとされています。言われるまでも無く極めて当たり前のことであります。本校は平成一八年の受審校となっており、詳細スケジュールとして既に説明会は済み、秋口には申請と作成説明研修が予定され、来年六月には実施要綱に基く自己評価書を提出し、年末にかけて書面と訪問による調査を受け、三月までに最終評価結果が確定し、公表される予定になっています。

機構および各高専の法人化開始第一期中期目標期間は平成一六～二〇年の五年間であり、中期目標を定め、運営実行上の中期計画を立て、かつ単年度計画に展開し、細部項目に亘って実績とその自己評価を行うものです。その項目は教育全般の細部にわたり、入学者選抜、カリキュラム、成績評価、教育成果、教育改善、教員確保、コンテスト、インターンシップ、カウンセリング、安全管理、共同受託研究、地域連携、卒業生ネットワーク等々のほか、業務効率化、施設設備マネジメント（見直し、有効利用、コスト節減）、財務管理運営、正規外教育サービス（公開講座、図書館開放等）などなどです。本校としては先ずは来年の認証評価に向けて万全の態勢で臨むことが重要課題の一つであります。

次いで、中央教育審議会一月答申の中に、高専教育において新しい単位計算方法の導入が盛り込まれました。現在の高専設置基準では教室内での三〇時間の履修を一単位と計算しているものを、一定の範囲内で、授業科目を選定し四五時間の学習（教室内プラス教室外の自学自習）を一単位と計算することとなります。講義等は授業一五時間プラス自学自習三〇時間、実験実習は授業四五時間が一単位となり、主として高学年対応で自学自習の指導方法や余裕発生時間の教育対応等について、副校長のもとで教務委員会や各学科において検討中であります。

かかる時勢ではありますが、本校としては学生の確かな学力の保証、そして健康な精神と体力と倫理観、よきリーダシップを備えた技術者の人材育成に向かって引き続いて教職員一丸となって当たっていく覚悟であります。今後とも母校へのなお一層のご理解とご支援をよろしくお願い致します。

校長退任にあたって

佐藤　修臣

校長として五年の任期を終え、定年退職することになりました。五年前本校校長就任の依頼があった際、高専の抱える難問を提示されて、校長が務まるか心配で一杯でした。当時、高専も独立行政法人化の問題が避けて通れない状況にあり、しかし一方で、どのような独立行政法人になるのかさえまったく見通しが立たない情況で、校長を引き受けるのには不安が一杯でした。独法化の方向が見えたのは、結局独法化移行の一年前と言う切羽詰った時期でした。それ迄は、多くの教職員、在学生は勿

論同窓会の諸先輩の心配は大変なものと察しながらも何も手を打つこともできず、苛々する日々を過ごしておりました。勿論、現在でも新しい体制について十分な対応がされているかと反省している情況で、尚一層の努力が必要と思っております。

着任した翌年には創基一二〇周年式典を同窓会の諸先輩を始め多くの方々のご協力を得て無事挙行できたことについては、厚く御礼申し上げます。

さて、私が着任して最初の保護者との懇談の際、小型船舶操縦士養成施設設立について前校長が約束していたが、その実現がどうなったかとの趣旨の話があり、返答に詰まった記憶があります。同養成施設の認可は、多くの関係者のお力添えを頂き、学生に少しでも付加価値を付けて卒業させたいと言う学校の方針が実現しましたが、新しい制度の導入には、種々の困難を伴うということを実感した次第です。

着任した当時、本校の最大の課題が専攻科の設置であると思い、また、その実現に歴代の校長もご苦労してきたと思っておりましたが、本校には専攻科の設置は夢であると言う人が居る事にびっくりし、却ってその実現に一種の闘志を抱いた記憶があります。結局は、多くの方々のご協力と支援を得て、夢が叶い今春設置が実現し、改めて多くの方々のお力添えに感謝しております。専攻科の設置は、単に、学士の輩出という面のみならず、独法化後の見直しがいずれそう遠くない時期に行われるますが、その際に大きな意味を持っていると認識される局面がきっとあるかと思います。専攻科の設置で、商船高専も漸く他の高専と同一ラインに並ぶことができたと思っております。

本年は、地震対策として耐震改修が行われ、その際に少しでも教室等の狭隘化の解消、学習環境の改善を図るよう計画しており、昨春の実習船あさまの代船建造と相俟って遅々とですが整備が図られていることは真に嬉しい事です。

私は校長退任後も大学評価・学位授与機構の高専関係の評価委員として任期が残っておりますので、今後も高専について関心を寄せて行きたいと思っております。最後に、鳥羽商船の一層の発展を心から祈念しております。

一、平成一六年度会務報告

一、会員の移動

（一）新入会員

正会員

Nコース一五名、
Eコース一七名、M科二五名、
I科三六名、　計九三名
N科二二名、E科一七名、
計三九名

二、会員数

（一）正会員

N科一、四五二名、
E科一、七二七名、
M科五二七名、
I科四五八名、
計四、二六四名

（二）特別会員

N科一〇名、E科五名、
計一五名

（三）準会員（在学生）

S科九九名、Nコース六三名、
Eコース七〇名、
M科二一六名、I科二〇八名
専攻科生（他校から入学）一名、
計六五七名

三、平成一六年度会議

（一）総会　一回

平成一六年六月六日（日）正午から、母校の視聴覚教室において開催され、母校の佐藤校長、林事務局長が来賓として出席された。出席会員は、N科三三名、E科二三名、M科三名、計五九名であった。出席会員及び会則一三条の規定による委任状の提出により、総会成立条件は満たされた。総会に先立ち、物故教職員及び物故会員に対し、黙祷が捧げられた。

落合会長から、同窓会及び母校に対する日ごろの会員の協力に対し感謝の言葉が述べられた後、最近における同窓会を取り巻く情勢についての報告があった。また、佐藤校長より、法人化された現状及び専攻科設置問題等母校の現状報告及び将来構想が述べられた。

次いで、議事次第に従い、提出議題が審議され、平成一六年度会務報告、平成一六年度会計報告、会計監査報告、役員の一部改選、平成一七年度事業計画等がいずれも満場一致で承認された。なお、議事進行を円滑化するため落合会長が総括的に報告された。なお、各支部長（北海道を除く）から、支部の活動状況が報告され、今後の課題、若い同窓生への連携、特に工業系学科卒業生への対応等の悩みが訴えられた。

（二）理事会　一回

平成一六年六月六日（日）、総会に先立って、母校の「百周年記念資料館」二階の大会議室において開催された。出席役員数は。理事三〇名、会計監査1名、計三一名であった。出席役員数及び委任状の提出により、会則による開催条件は満たされた。

落合会長の挨拶に続き、平成一七年度総会の提出議題について審議され、質疑応答の後了承された。続いて、落合会長から、最近における母校を取り巻く諸問題、すなわち法人化の影響、専攻科設置申請における現状が報告された。また、同窓会本部における今後の課題、事務局の運営、支部との対応等についても報告された。

（三）支部長・本部理事会議　二回

a　第一回

平成一六年九月一六日（木）、商船学科卒業式当日、母校の「百周年記念資料館」二階の大会議室で開催され、常任顧問、会長、副会長七名、支部長五名、本部理事七名計二一名が出席した。議題は、下記の通りである。

イ　同窓会創立八〇周年記念事業

ロ　同窓会創立八〇周年記念誌編集

ハ　母校の法人化の状況

ニ　その他

これらの審議内容については、平成一六年度の「第二号同窓会報」に詳細に報告・周知されたとおりである。落合会長が特に問題にされたのは、同窓会の財政の健全化で、そのためには、工業系の会員の会費納入状況が一向に向上しないことへの対策と、工業系会員の総会、支部総会等への参加促進の在り方の研究の二点であった。

b　第二回

平成一七年三月七日（月）、電子機械工業科及び制御情報工学科の卒業式当日、母校の「百周年記念資料館」二階の大会議室において開催され、常任顧問、会長、副会長五名、支部長（代理を含む）五名、本部理事六名、計一八名が出席した。議題は、

イ　同窓会創立八〇周年記念事業

ロ　同窓会創立八〇周年記念誌

編集

ハ　母校の専攻科設置

二　その他

記念事業については、「慰霊祭・合祀祭」の実施要領、参加申し込み状況及び今後の対策が報告された（事務局とホテル側の折衝等）。「同窓会員名簿」の発行に伴う広告代金の受領状況及び会員による寄稿のほか、落合会長名で執筆依頼が出され、現在までの受領状況が報告された。また全般的な編集内容及びページ割り付け（予定）が提示された。なお、「同窓会員名簿」及び「同窓会創立八〇周年記念誌」の発行は平成一七年八月三一日の予定と報告された。

念願であった母校の専攻科の設置が認められ、平成一七年度より、商船学科については「海事システム学専攻」定員四名、工業系については「生産システム工学専攻」定員八名が認可されたことが落合会長より報告された。なお、専攻科設置に伴う諸問題（研究棟の整備、今後の課題等）も報告された。

最近、会員の死亡連絡が家族から本部に知らされない場合が非常に多くなり、弔電が間に合わない例が増加したので、支部における会員のネットワークの必要性が討議された。また、支部総会の開催に際しての案内の返事が相変わらず少ないというのが各支部長の悩みであることが訴えられた。この問題は長年の課題であり、会員各位の協力に委ねる以外解決方法が無いのが現状である。

四、会報の発行

(a) 第一号

平成一六年度第一号は・平成一六年七月二〇日に発行、新しい制度すなわち法人化という新しい制度のもとでの母校の現状について、佐藤校長が詳細に報告され、校名も「独立行政法人国立高等専門学校機構、鳥羽商船高等専門学校」となり、従来のように、「国立鳥羽商船高等専門学校」ではなくなったことが報告されている。また、法人化以後は「独立行政法人大学授与・評価機構」による評価が、母校の将来を指向することになる。このため教職員の負担が従来よりも大きくなることが予想される。評価により学校運営予算が左右されるからである。

第一号では、平成一六年度総会の模様が詳細に報告されたほか、決算報告、懇親会報告、各支部報告、クラス会報告、会員の叙勲及び表彰、学校便り、会費及び寄付金報告、新入会員紹介、会員の移動、物故教職員・会員等が報告された。

(b) 第二号

平成一六年度第二号は・平成一六年一二月二〇日に発行、平成一六年度第一回支部長・本部理事会議の内容、会員の叙勲及び表彰、各支部報告、クラス会、学校だより、会費及び寄付金報告、新入会員、会員の移動、物故教職員及び物故役員の追悼文等が掲載された。

五、対外活動

(一) J・S・A・F外洋東海支部主催の「パール・レース」を例年どおり支援した。

(二) 全国商船高等専門学校カッター・レースを例年どおり支援した。

(三) 母校の商船学科、電子機械工学科・制御情報工学科の卒業祝賀会を共催した。

(四) 全国高等専門学校体育大会や国民体育大会に選手として出場した母校学生に対し、奨励金を贈呈した。

(五) 全日本船舶職員協会の団体協賛金を負担し、商船学科卒業生の入会勧誘を例年どおり協力した。

(六) 母校の近藤先生記念碑周辺の環境整備（草刈り）を6月及び9月の2回実施した。

(七) 鳥羽市教育委員会主催の「鳥羽少年探偵団」の活動を支援した。

(八) 「攻玉社学園」の学生一行の母校訪問に祭し、「近藤先生」資料を配布した。

2.平成16年度 会計報告

収支計算書　（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

1、収入

科目	予算	金額	差異
入会金（新入会員93名）	100,000円	93,000円	△7,000円
会費（新会員93名2年分）	400,000	372,000	△28,000
会費（一般・終身・特別会員）	3,950,000	3,646,500	△303,500
利子（郵政公社・第三銀行分）	1,000	384	△616
会員名簿売上代金	250,000	913,500	663,500
会員名簿予約代金	（工業系新卒者70名分予約分）		
会員名簿広告代金	0	560,000	560,000
寄付金（一般寄付）	0	100,840	100,840
寄付金（80周年記念総会）	0	40,000	40,000
同窓会創立80周年総会参加費用	0	276,000	276,000
書籍代金（海の寅さん分）	0	11,500	11、500
計	4,701,000円	6,013,724円	1,312,724円
繰越残高	6,067,818円	6,067,818円	
収入合計	10,768,818円	12,081,542円	

2.支出

科　目	予　算	金　額	差　異
負担金（卒業祝賀会：学生会・商船高専カッター大会・全船協会）	350,000円	575,200円	△225,200円
本部総会費用	500,000	537,671	△37,671
支部通信費補助	310,000	270,000	40,000
会報（印刷費・送料2回分）	1,700,000	1,788,880	△88,880
謝金	100,000	85,000	15,000
慶弔費	80,000	93,120	△13,120
役員旅費	600,000	738,000	△138,000
通信費（電話・郵便料金）	100,000	133,833	△33,833
事務用品・消耗品	100,000	105,326	△5,326
会議費	100,000	100,000	0
百周年記念資料館環境整備費用	100,000	69,320	30,680
会務運営費用	600,000	600,000	0
予備費（郵便振替払出料）	60,000	65,120	△5,120
支出合計	4,700,000円	5,161,470円	△461,470円
次年度繰越差額	6,068,818円	6,920,072円	

基金の部決算（平成17年3月31日）

摘　要	収　入	支　出	残　高
			31,874,615円
利子（アセット信託銀行分）	1,728円		
〃（第三銀行定額預金分）	2,100		
計	3,828円	0円	31,878,443円

母校創基120周年記念事業寄付金決算（平成17年3月31日）

摘　要	収　入	支　出	残　高
			1,663,337円
利子（郵政公社・普通預金分）	67円		
計		0円	1,663,404円

財産目録（平成17年3月31日）

項　目	金　額	左の内訳	金　額
繰越金	6,920,072円	貸付信託（アセット信託銀行）	7,000,000円
基金	31,878,443	金銭信託（アセット信託銀行）	283,263
		普通預金（第三銀行）	726,460
母校創基120周年記念事業寄付金残金	1,663,404	定期預金（第三銀行）	7,685,035
		定額預金（郵政公社）	10,200,000
		普通預金（郵政公社）	11,639,500
		普通預金（郵政公社）	1,663,404
		郵便振替残高	242,374
		アルバム残高（13部）	15,600
		単行本残高（15部）	37,500
		現金（同窓会創立70周年残金）	359,188
		現　金	609,595
計	40,461,919円	計	40,461,919円

三、会計監査報告

会計監査報告

平成一六年度における、入会金、会費、寄付金、会員名簿売上及び新会員名簿予約代金、同窓会創立八〇周年記念祝賀会参加費等について、金銭受け入れ原簿、また支出については、領収書、金銭支出原簿、さらに収支計算書、財産目録、証券、預金通帳、郵便振替等と照合して監査した結果、いずれも正確かつ適正であったことを認めます。

平成17年6月8日

会計監査　斎藤希二
　　成瀬正雄

四、役員の改選

同窓会役員一覧表　平成17年6月12日☆は新任

(一)常任顧問

S43N　角谷　一成

(二)顧問

S7N　裕口　輝治
S10N　和田　道夫
S16N　佐藤　静雄
S16N　山崎　修
S17N　末崎　弘
S17N　西川　慶堂
S18N　小原　博
S19/12N　長谷川　俊治
S19/12N　梶田　文弥
S19/12N　富岡　久
S19/12N　中島　好康
S21N　島田　昭三
S21N　土屋　和男
S21N　中野　清文
S21N　長谷川　好造
S22N　山本　茂
S23N　坂本　実
S23E　片岡　久雄
☆S27E　飯山　嘉昭
☆S25E　千々波　天信
☆S30E　春口　正一

(三)相談役

☆S26N　松本　暢生

役員の改選に際し、理事定員を会則、第三章「機関」の第六条の規定に従い六〇名とした。

(四)会長

S22N　落合　弘明

(五)副会長

S19/12N　根本　明
S27N　梅村　伸雄
S33N　片山　勝則
S33N　菅原　昌男
S36N　松浦　肇
S27E　斎藤　隆

(会長代理を兼ねる)

☆S35E　菱田　司

(六)支部長・理事

一、本部(伊勢志摩支部兼務)

支部長
S30E　古川　昭一

理事
☆S38N　牛場　正
S39N　中村　武史
S42N　金田　護
S48N　鈴木　秀司
S43E　世古　利郎
S44E　江崎　隆夫
S44E　竹内　和彦
S47E　岡本　楠清
S48E　橋本　晴行
S53E　中村　俊輔

二、北海道支部

支部長
S24E　桜井　明

三、京浜支部

支部長
S42N　田中　三郎

理事
S32N　辻　裕
S38N　井上　信也
S43N　水野　正浩
S48N　古屋　勤
☆S48N　野村　錦生
S49N　大橋　秀章
S36E　石川　仂
S39E　小野　斗章
S39N　可児　裕之
S42E　金咲　行雄

四、静岡支部

支部長
S26E　堀　三矢之助

理事
S33E　尾鷲　綱三

五、名古屋支部

支部長
☆S48N　菅沼　延之

理事
S41N　丹羽　幸彦
S43N　小林　正司
☆S43N　岡田　晴康
S42E　竹川　俊幸
S52E　加塚　伸吾

六、四日市支部

支部長
S37N　中澤　昌信

理事
S37E　山田　岑生
☆S55N　室　博也
S43E　鈴木　敏行

七、大阪支部

支部長
☆S42N　藤本　昌之

理事
☆S48E　岡崎　和清
S52N　岡室　孝美
☆S55N　宮本　一彦
☆S58N　国安　政幸

八、神戸支部

支部長
S32N　奥　正夫

理事
S31N　桑島　収平
S33E　西村　潔
S36E　飛田　喜八郎
S36E　小沢　剛

九、九州支部

支部長
S33N　福岡　健彦

(七)会計監査

S22N　斎藤　希二
S22E　成瀬　正雄

名誉会員の推薦について

会則第四条第二項に規定されている、名誉会員については、同窓会発足以来その例を見ていない。今後、名誉会員の推薦に際し、下記のような規定を設けたい。

1.支部長、副会長、会長としての任期が通算8期以上に及び、会の発展に寄与した役員を対象に、会長が推薦し、理事会の承認を経て、総会において就任を要請する。

2.名誉会員に対しては、総会、記念総会等同窓会が主催する懇親会、祝賀会に招待状を送付する。

五、平成一七年度事業計画

一、会議

（一）総会　一回

平成一七年六月一二日（日）、「同窓会創立八〇周年記念総会」として、母校の視聴覚教室で開催し、平成一六年度会務報告、平成一六年度会計報告、会計監査報告、役員の改選、会則の一部変更、平成一七年度事業計画、「同窓会創立八〇周年記念事業」を審議する。また法人化後の母校の実態、専攻科の設置等について来賓の学校長の報告を受ける。

（二）理事会　一回

平成一七年六月一二日（日）、総会に先立って、母校の「百周年記念資料館」二階大会議室で開催し、平成一七年度総会に提出議案を審議する。また「同窓会創立八〇周年記念事業」について審議する。なお、母校の将来問題等についても討議する。

（三）支部長・本部理事会議　二回

第一回は、平成一七年九月一五日（木）商船学科卒業式当日、母校の「百周年記念資料館」二階の大会議室で開催し、「同窓会創立八〇周年記念事業」の総括及び決算報告を行なう。また、母校の商船学科専攻科開設の準備状況等についても報告する。

第二回は、平成一八年三月六日（月）電子機械工学科及び制御情報工学科の卒業式当日、母校の「百周年記念資料館」二階の大会議室で開催し「同窓会創立八〇周年記念事業」の最終報告を行なう。また、母校の現状及び将来問題について討議する。

二、会報の発行

平成一七年七月二〇日を目標に「平成一七年度第二号」を発行し、「同窓会創立八〇周年記念総会」の特集号として発行し、総会における審議内容、理事会の討議事項、「慰霊祭・合祀祭」、祝賀会の状況報告を行なう。また、会員叙勲・表彰、支部報告、クラス会、学校だより、新入会員、寄付金、入会金及び会費の納入状況報告、物故会員等を周知する。また、「会員名簿」及び「鳥羽商船同窓会八〇年の歩み」の発行案内を行なう。

平成一七年一二月二〇日を目標に「平成一七年度第二号」を発行し、本部報告として、「支部長・本部理事会議」の討議内容、会員の叙勲・表彰、支部報告、クラス会、学校だより、新入会員、会員の移動、寄付金、入会金、会費の納入状況報告、物故会員等を周知する。また、「会員名簿」及び「鳥羽商船同窓会八〇年の歩み」の発行案内も行なう。なお、法人化以後、他の高等専門学校において、学校と同窓会が一体となって、地域振興のためのプロジェクトを形成し活動している状況等についても報告する。国立大学や私立大学が学校内容や活動状況についてのPRをマスコミ通じて盛んに行なっており、研究拠点を東京に求めている状況も報告する。

三、対外支援活動

（一）J・S・A・F外洋東海支部主催の「バール・レース」を例年どおり支援する。

（二）全国商船高等専門学校カッター・レースを例年どおり支援する。

（三）母校の商船学科及び電子機械工学科・制御情報工学科の卒業祝賀会を例年どおり共催する。

（四）学生会の活動を支援する目的から、「海学祭」への協力、また全国高等専門学校体育大会や国民体育大会へ選手として出場する学生に対し、奨励金を贈呈する。なお、全国レベルにおける研究活動において、入賞した学生に対しても同様に奨励金を贈呈する。

（五）全日本船舶職員協会の団体協賛金を負担し、商船学科卒業生の入会勧誘を例年どおり協力する。

（六）母校の「近藤先生記念碑」周辺の草刈りを外部機関に委託し、母校の環境整備に協力する。今年度は、これを目的とした「特別寄付」を名古屋支部の菅沼会員（今期支部長）より受領したので、従来の六月、九月の二回の草刈りを二回程度増加する。

（七）法人化以後の他の高等専門学校の地域との協力プロジェクトの実態調査を推進する。同窓生関連企業との連携を強化している「高知工業高専」や、福井市役所に同窓生が三〇名以上在勤している「福井工業高専」等活動状況等を参考にする。この場合問題になるのは、商船系と工業系の二部門に分かれる「商船高専」の場合は、両者の一体化が難しいことである。工業系会員の参加し易い環境整備に努めているが、工業系会員が敬遠する傾向が気掛かりである。このためには、母校側の協力も必要となる。同窓生教員の採用を積極的に推進して頂きたい。

四、母校の創基一二五周年（A Century Quater Anniversary）への対応

平成一八年は、明治一四年から数えて一二五年に当たる。米国の大学等においては、四進法が採用されている関係上、表題のような記念行事が展開される例が多い。母校の場合は、平成一三年に「創基一二〇周年」を盛大に祝い、関係方面に「鳥羽商船」の存在を誇示した。各種記念行事を展開し、同窓会が募金に積極的に協力したのは、母校の存在価値をアピールする意味があった点が理解されたからである。母校は、平成一七年度に「専攻科」が設置され、南勢地区における、理工系の最高教育機関としての存在を高めることとなった。今後「専攻科」研究棟の整備、研究センターの設置等が計画され、「東南海地震」等に対する施設の耐震工事も推進されており、平成一八年度中には完成の予定で、完成祝賀会も念頭にあると伺っている。商船高等専門学校昇格時、施設の落成に合わせて「校舎完成祝賀会」を開催、練習船

"鳥羽丸"の完成時、「完成引渡し式」の開催について、同窓会への協力が母校より要請され、対処した例がある。A Century Quater Anniversary の一環として母校より正式に協力要請があれば、会員の協力が得られやすいように思われる。

六、母校の将来問題　その他

一、母校関係

（一）認証評価について

国・公・私立大学（短大を含む）及び高等専門学校は、教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況に関し、七年以内ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）の実施する評価を受けることが義務付けられている。（学校教育法第六九条の三第二項、七〇条の一〇及び学校教育法施行令第四〇条）

独立行政法人大学評価・学位授与機構においては、国・公・私立高等専門学校に対して、学校教育法に定められた評価を受ける機会を十分に保障し、その教育研究水準の向上に資するため、独立行政法人大学評価・学位授与機構法第一六条第一項の業務規定により、高等専門学校機関別認証評価を実施する。

平成17年度予算

1．収入

科　目	予　算　案	平成16年度との差異
入会金（100名）	100,000円	0円
会費（新入会員100名2年分）	400,000	0
会費（一般・終身・特別会員）	3,950,000	0
利子（郵政公社・第三銀行）	500	△500
会員名簿売上代金	300,000	50,000
計	4,750,500円	△500円
前期繰越代金	6,920,072円	

2．支出

科　目	予　算　案	平成16年度との差異
負担金（卒業祝賀会、学生会、全船協、商船高専カッター大会）	350,000円	0円
本部総会費用	1,000,000	500,000
支部通信費補助	310,000	0
会報印刷代金・送料	1,700,000	0
謝金	100,000	0
慶弔費	80,000	0
役員旅費	600,000	0
通信費（電話料・郵便料金）	100,000	0
事務用品・消耗品	100,000	0
会議費	100,000	0
百周年記念資料館・周辺環境整備費	100,000	0
会務運営費用	600,000	0
会員名簿（印刷代金・送料）	2,000,000	2,000,000
予備費（郵便振替払出料金）	60,000	0
計	7,200,000	2,500,000円
次年度繰越収支差額	4,470,572円	

同機構は、高等専門学校から提出された自己評価に対し、書面及び訪問調査を通じて評価を実施、評価結果を確定のうえ評価結果報告書としてまとめ、対象高等専門学校及び設置者へ提供するとともに、広く社会に公表する。独立行政法人国立高等専門学校機構は平成一七年から一九年にかけて、高等専門学校の評価を実施し、母校の場合平成一八年度に評価を受けることが確定している。

認証評価は、母校の将来の予算措置にも関係する重要な課題であり、同窓会としても周辺の環境整備等で協力出来る点は推進したいと考えている。今回、近藤真琴先生記念碑周辺の花木の植えかえ及び剪定を実施したのも、全国高等専門学校随一と思われる校門付近の環境整備を推進し、母校の認証評価に寄与する一環であることを了解して頂きたい。

（二）海学祭への協力

昨年の総会で海学祭への協力の一環として、伊勢・志摩地区在住の同窓生特に工業系の会員の集い、すなわち、私立大学及び最近では国立大学（東京大学など）でも盛んになってきているホーム・カミング・デイの導入を提案したが、同窓会創立八〇周年記念総会の推進が優先されて保留となった。

伊勢・志摩地区には、工業系の会員特に女子会員在住者も多く、海学祭に子供連れで来校している姿を望見することも多い。工業系会員の同窓会への関心を高めることはかなりの困難を伴うと思われるが（全寮制時代と違って通学生が大半であることから、母校に対する思い込みが薄いことが推定される）、ホーム・カミング・デイの実施によって、母校への関心を高める施策が不可欠と考えられる。

同窓会報を通じて海学祭への同窓会の対応を明確に周知し、「百周年記念資料館」の二階、大会議室を開放して軽食、飲み物等を用意し、会員間の交流を推進したいと考えている。工業系会員の母校に対する思いやりを高める運動は地道に継続する以外に道はないように思われる。海学祭への商船系の会員参加はもちろん歓迎である。

理事会

総会議題を審議するため、本部総会に先立ち、六月一二日（日）午前九時から母校百周年記念資料館二階大会議室で、落合会長他同窓会役員二八名が出席して、平成一七年度理事会が開催されました。

落合会長が専攻科の設置されたことや校長が交代されたこと等、学校の近況を報告する挨拶をされ

同窓会創立八〇周年記念行事出席者

来賓（二名）
山田猛敏校長
桐山元位庶務課長

N科（五二名）
○印総会のみの出席者
△印祝賀会のみの出席者

S16 荒川 典彌
S17 末崎 弘
○S18 小原 博
S18 落合 好明
○S18 坂下 安伸
S19 裏山 惣一
S19 山本 太郎
S19/12 根本 明
S19/12 福村 藤右衛門
S21 井上 三二
S21 川村 喜一郎
S21 清水 芳美
S21 中野 清文
S22 落合 弘明
S22 齋藤 希二
S22 田村 辰夫
S24 待井 信一
S26 松本 暢生
S27 梅村 伸雄
S29 漆山 順三
△S30 江頭 昭雄
S30 上山 浩
S31 桑嶋 収平
S31 坪田 順雄
S31 山田 博
S32 大澤 則義
○S32 大島 秀也
S32 奥 正夫
S32 正元 弘三
S32 辻 裕
S32 萩原 勝芳
S33 片山 勝則
S33 菅原 昌男
S33 福岡 健彦
S36 大西 彰夫
S36 長谷川 雅昭
S36 松浦 肇
S36 森 良雄
S37 中澤 昌信
S38 牛場 正
S38 武部 二三男
S39 中村 武史
S41 丹羽 幸彦
S42 島田 愛水
S42 田中 三郎
S42 金田 護
S42 藤本 昌之
S43 井上 民規
S43 小甲 和己
S44 武田 雄三
S48 鈴木 秀司
S48 菅沼 延之

E科（五二名）
S08 高山 逸治
S13 安田 太津造
S18 高梨 素直
○S18 中山 嘉美
S19 右高 昭二
S19 村井 憲次
S19/12 高野 富美男
S19/12 東爪 佐七
S19/12 山下 健作
S21 谷 友也
S22 成瀬 正雄
S22 三浦 一好
S23 片岡 久雄
S23 世古 那須太
S23 竹田 純三
S23 竹田 保夫
S23 中村 逸郎
S23 西井 東
S23 山本 義勝
S25 川合 隆史
S26 秋田 清
S26 黒田 俊夫
S26 田嶋 弘茂
S26 堀三 矢之助
S27 飯山 嘉昭
S27 金澤 恒男
S27 齋藤 隆
S27 長澤 秀樹
S27 森脇 利康
S27 森田 幸平
S28 小林 巽
S28 増田 信
S28 水谷 智洋
△S30 石川 篤夫
△S30 小林 公郎
△S30 東山 暢仍
S30 古川 昭一
S30 堀田 敏行
S32 梅田 尤二
S32 大橋 厚生
S32 小出 政夫
○S32 高城 護
S33 西村 潔
S34 奥野 明
S35 菱田 司
S41 木俣 良雄
S42 竹川 俊幸
S43 世古 利郎
S47 岡本 楠清
S47 竹内 和彦
S47 永井 晴久
S48 奥田 宣夫

M科（一名）
H13 牛江 正典

同伴者（六名）

合計（一一三名）

た後、本会報に掲載した本部総会の配布資料に沿って、平成一六年度の事業報告をされた。続いて会計監査報告をS22N・斉藤希二会員がされ、満場一致で了承されました。なお落合会長は、年間四〇〇万円の収入がないと本会の運営ができないことを強調されました。

役員の改選については、各支部から推挙された支部長・支部理事をはじめ各役員について審議され、四日市支部理事の変更を確認の上、本会報に掲載した人事に決定し、総会に計ることになりました。会長は、年齢面から辞退を表明されたが、あと二年継続していただくことで出席役員全員の拍手に迎えられました。

平成一七年度事業計画を落合会長が報告された後、京浜支部役員から本部事務局のあり方についての質疑がありました。その意図するところは、本部の意向が京浜支部に充分伝わってこないため、事務局に専従職員を置くことにより会の充実を計るというものでありましたが、予算面で実現不能なことを会長が応答されました。合祀祭にむけての時間的制約から、この点についての協議は打ち切りとなりましたが、現実問題として現在の本部事務局の構成人員で今以上の状態を望むのは無理であることを本部から申し上げる次第です。

なお、一年前から「京浜会館」のあり方について問題が生じており、落合会長は理事会で協議すべく書面を出席役員に配布しましたが、時間の制約から全く討議されずに終了しました。従って「京浜会館」の今後のあり方については平成一八年度の理事会と本部総会で会員の意見の統一を計った上で対処することとなりました。

理事会出席者は、左記の会員です。(役員名は平成十六年度による)

常任顧問　松本　暢生
会　長　落合　弘明
副会長　根本　明
　　待井　信一
　　梅村　伸雄
　　片山　勝則
　　菅原　昌男
　　松浦　肇
　　斉藤　隆
支部長　古川昭一
　(本部・伊勢志摩)
　田中　三郎(京浜)
　堀　三矢之助(静岡)
　竹川　俊幸(名古屋)
　中澤　昌信(四日市)
　奥野　明(大阪)
　奥　正夫(神戸)
　福岡　健彦(九州)
理　事　中村　武史(本部)
　金田　護(〃)
　岡本　楠清(〃)
　上山　浩(京浜)
　辻　裕(〃)
　菱田　司(〃)
　丹羽　幸彦(名古屋)
　菅沼　延之(〃)
　桑嶋　収平(神戸)
　西村　潔(〃)
会計監査　斉藤　希二
　　成瀬　正雄
　以上二九名

理事会における会長挨拶

本日は朝早くからご足労をかけまして有難うございました。従来、慰霊祭・合祀祭を挙行する際は、慰霊祭・合祀祭、理事会、総会という順序で行なって参りましたが、今回は理事会が慰霊祭・合祀祭と逆になりまして、皆さんにご迷惑をお掛けしました。

一昨年以来、問題になってきました、母校の法人化及び専攻科設置問題につきましては、すでに電話で副会長及び支部長にご連絡しましたように、すべてクリヤーしまして、今はホットしているところです。

専攻科設置につきましてはいろいろありまして、お話し難い面もございます。本会の理事の中にも、商船学科統廃合について言及している方がおられるようで、私の方に「どうなっているのだ?」と電話で問い合わせがありましたが、本部としましては、私の個人的ルートを通じて打てる手は十分対応して参りました。

商船系、工業系共専攻科が設置出来まして、当分の間は商船学科の統廃合問題は話題に上がらないことを期待しています。皆さんも各支部において、母校の実状をしっかり報告して頂きたいと思います。

去る4月始め、新校長より連絡があり、表敬訪問致しまして、今後の母校の方針、問題点等について、約一時間半討議して参りました。新校長の意見、ご希望も十分拝聴し、同窓会としての協力を約束して参りました。

ご覧になられましたように、校門付近の環境整備を同窓会で行ないまして、本日に備えました。同窓生献納の樹木の手入れも行ないまして、伝統校としてのプライドを示すよう努めたいと思います。本日は行事が錯綜しますが、どうかよろしくご協力願います。

慰霊・合祀祭

平成一七年六月一二日(日)午前一〇時より、理事会に続いて、校祖「近藤真琴」先生記念碑前広場に於て、同窓会主催の「慰霊・合祀祭」が、鳥羽琴平宮宮司により厳粛に挙行されました。

同窓会員一〇一名と山田猛敏校長及び桐山元位庶務課長が参列し、母校が一二四年間続いたことに対して校祖、物故会員及び物故教職員のご加護に感謝し、平成一三年一一月九日に挙行された合祀祭以後に逝去された、新たな物故会員及び物故教職員一三〇名の合祀を行ないました。

斎主玉串に続き、代表者玉串として落合会長と山田校長が奉奠し、遺族代表として斉藤希二会員が拝礼し、以下最長老のS08E・高山逸治会員から卒業年度順に約二〇名の会員が奉奠し、最後に全員が起立してS21N・清水芳美会員にあわせて拝礼しました。

落合会長が挨拶に続き、代表者追悼の辞を奏上し、約四五分間で修了しました。好天の下、美しく整備された庭園の雰囲気はまさに合祀祭を行うに相応しいものでした。

追悼のことば

校祖「近藤真琴」先生はじめ、物故教職員及び物故会員の御霊に申し上げます。本日「同窓会創立八〇周年記念総会」を開催するにあたり、鳥羽琴平宮の宮司のご先導により、慰霊祭及び合祀祭を挙行しまして、皆様をご慰霊いたしました。

皆様の日ごろの母校ならびに同窓会の発展についてのご加護に対し、参列者一同心から御礼申し上げますとともに、今後の一層のご支援をお願い申し上げます。

母校は平成一六年度から、独立法人国立高等専門学校機構の傘下となり、新たなシステムのもと出発いたしました。また平成一七年度には念願の「専攻科」の設置が認可され、すでに工業系は授業を開始しております。商船系の「専

攻科」につきましては、海上実習の関係から、一〇月に開講されることになっております。

母校は、長年にわたり技術者養成につとめてまいりましたが、今後は研究者養成にも船出することになったわけであります。母校は、今や南勢地区唯一の理工系最高教育機関としての重責を担うわけで、その期待は非常に高いものがあります。

これも日ごろから母校の一画、すなわち母校の聖地にあって、常に母校の発展を見護つて頂いております皆様のご加護の賜物で、教職員及び同窓生一同心から御礼申しあげる次第であります。

校祖「近藤真琴先生記念碑」周辺の環境整備につきましては、同窓会も積極的に母校に協力し、校門付近の美化に努める方針を打ち出しております。私たち同窓生は、今後も母校の発展に寄与すべくあらゆる努力をする積りでありますので、どうか皆様も一層のご加護をお願い申し上げます。

「同窓会創立八〇周年記念」にあたり、ここに皆様の前で、私たち同窓生の決意を述べまして、皆様にたいする慰霊の言葉とします。

平成一七年六月一二日

鳥羽商船同窓会

会長　落合　弘明

合祀物故者一覧

（一三〇名）

平成一七年六月七日現在

教職員（一二名）

村野　謙二　越智　清支
内田　富義　伊藤　孝
堤　一晃　中村　繁夫
乾　佐一　岩崎　平三郎
上村　重吉　寺田　豊次
船木　恒吉　岡田　明

航海科（五〇名）

卒業年次

S03 坂口　才五郎
S04 田中　慎一
S06 大竹　榮　奥田　庄吉
S07 野中　茂雄
S10 近藤　辰郎
S11 岡島　覚
久保　士朗平
S12 八木橋　健治
S13 西川　敏夫
S14 青木　留治郎
川北　正夫
S15 西岡　光雄
S18 石川　正次郎
久保　文計
中村　浅吉
S19 浅野　和昭
S19/12 浦邊　一夫
大久保　徳夫
S21 鈴木　詮　濱畑　勇
原　利行　森田　武雄
門倉　毅
古妻　秀夫
榊原　孝一
羽根田　勉
S22 鹿島　博　宮本　秀雄
S23 伊佐治　五郎
S25 山村　實
S26 下川　英之
S28 笠木　次郎　中嶋　恭次
S29 野呂　卓司
S30 小久保　辰夫
S31 福原　寛
S34 長内　秀文
S36 新庄　尚男
S39 澤口　勝　谷　恒生
直江　良矩
S41 佐々木　健　三橋　純夫
S42 中前　二好
S43 友田　勉
S48 古橋　正至
S49 中野　宏
S50 川上　祐規夫
H07 直海　航

機関科（六八名）

卒業年次

T13 土屋　満平
S02 大瀬　政郎
S03 北川　文男　堤　好造
福北　三雄
S04 生田　錦次
S06 玉置　蔵
S07 古賀　栄次
S09 芝野　福太郎
中村　幸彦
S10 北橋　政次郎
西　政夫　松原　操
S11 坂田　薫　鈴木　次郎
早津　辰海
S12 広岡　隆一　松山　孝夫
S13 小野　菊次郎
S14 佐波　義三　野村　仁
S15 宇田　啓三郎
奥川　秋一　小海途　靖
S16 加藤　徳助
中西　三郎　山口　正雄
S17 丸本　覚平
S18 青木　佐加男
秋澤　土佐男
伊藤　欣平　嶋村　一
中西　八郎
S19 桂川　淳
大村　守男　劔持　光雄
S19/12 坂部　充二
下村　甚一郎
瀬戸　照男　伴　巧
S21 逢坂　宏　加藤　鎗三
土方　利通　森崎　浦路
S22 久貝　浩　宮澤　弘一
山田　隆典
S23 岡野　善宏
S24 伊藤　二郎
S25 春井　岩男　森北　利和
S26 宗田　寛
S27 濱島　重和
S30 杉木　滋弘
S31 山口　博
S33 杉原　茂　綿　国彦
S35 都築　利人
S36 鈴木　正昭
S37 寺田　修　三ツ川　憲治
S38 三橋　幹光
S40 須田　善二　村尾　正純
S41 田中　節男
S43 松宮　正博
S52 伊村　勝則
S56 春木　登司彦

祝賀会

本部総会終了後、十二時三〇分より鳥羽国際ホテル南館六Fのコンベンション・ホール「海城」にて、祝賀会が開催されました。参加者一〇八名は、ホテル所有のバス（定員四〇名）二往復と自家用車で全員が三〇分で移動することができました。

ホテル到着後、参加者はウエルカムドリンクとしてシャンパンが配布され、ピアニストの松原真理子氏がクラシック音楽を演奏する中、八名のコンパニオンに迎えられて入場しました。

宴席は、四年前に母校創基一二〇周年記念祝賀会を行った時と同様に、全員が丸テーブルに座れるように配慮しました。卒業年度順に上座からなるべく同級生が同一のテーブルになるように、総会受け付けの際に配布した資料用封筒にテーブルNo.をあらかじめ明示しておいたので、スムースに着席できました。

総合司会をハッピープロデュースの前田薫氏にお願いし、予め本部で用意したシナリオに沿って祝賀会は進行しました。

落合会長の歓迎の挨拶の後、一二時四五分から恒例の「鏡割り」を行いました。学校を代表して山田校長、同窓会を代表して根本副会長・最長老の高山顧問・航海科

を代表して末﨑顧問・機関科を代表して飯山顧問の五名が法被をまとい木槌を勢いよく降ろしました。続いて乾杯は、「鳥羽商船同窓会創立八〇周年記念祝賀会」と明記された一合升で、航海科最年長の荒川典彌会員の音頭で行われました。

イベントとしては、一三時〇五分から「九鬼水軍太鼓」の演奏が行われ、その勇壮な音色に一同歓談をやめ、熱心に聴き入りました。

次のショーまでの時間を利用して、総会で時間的制約から実施されなかった支部報告を各支部長にしていただきました。（北海道支部長は欠席）

一四時からは、ジャズバンド「高橋謙一クインテット」の演奏を約三〇分間、楽しみました。明治大学軽音楽部出身のサックス奏者高橋謙一をリーダーに、ピアノ・Wベースと女性ヴォーカルを加えた本格派ジャズバンドの演奏は、外航船で本場アメリカのジャズに多く接している耳の肥えた会員にも仲々好評でした。

このような宴会で、誰とはなしに提言があり始まるのが「校歌斉唱」で、五・六名の年輩の会員が旧校歌を六番まで正確に唱和されたのには驚かされました。

一五時に至り、閉会の挨拶を斉藤副会長がされ、祝賀会をとどこおりなく終えました。

なお、当日、総会の席上で中山嘉美会員が気分を悪くされ、救急車で山田赤十字病院に運ばれました。同級生の小原博顧問と坂下安伸会員が付き添いで同乗されたため、祝賀会を欠席という残念な結果になりました。特に小原顧問には鏡割りをお願いしていただけにお気持ちを拝察します。しかし、それにも増して友情の厚さを見せていただき、母校のすばらしさを再認識しました。

後日、落合会長が御三方にケーキと一合升をお送りしたことに対し、丁重な礼状をいただいたことを報告します。

祝賀会における挨拶

たびたび登場いたしまして恐縮いたしております。いよいよお楽しみの祝賀会が開始されます。ご馳走をまえに一つだけお話しますと、四年前の母校の「創基一二〇周年記念祝賀会」を同窓会が主催しまして、この会場からわが国最大の客船〝飛鳥〟が望見され、お祝いの汽笛「長声一発」を聞いて万歳三唱したことを思い出します。後で汽笛をならしたのは、同窓生の「原秀男」一等航海士で、「母校のますますの発展を祈って力一杯レバーを引いた」と雑誌の対談で語っていたのを見て大変感激しました。

原秀男君の結婚式に招待されましたが、入学試験当日のため出席できず、後日お詫びの意味で、鳥羽国際ホテルに招待したことを思い出します。

〝飛鳥〟は平成一〇年の「同窓会総会」で利用しましたことは、皆様ご承知のとおりです。〝飛鳥〟も今年を最後に退役となり、替わって〝飛鳥2世〟が来年から稼動する予定と伺っています。いつの日か同船船上で「同窓会総会」が開催されますことを期待しまして私のご挨拶とします。みなさんおおいにお楽しみ下さい。お飲みものは十分用意させてもらっています。美しいコンパニオンさんのサービスを存分にお受け下さい。有難うございました。

会員の新刊書紹介

日露戦争一〇〇周年記念出版
バルチック艦隊
東航の果てに
S15E・加藤卓雄
（合資会社）歴研
定価二、五七五円
〒一四一―〇〇三一
東京都品川区西五反田
二―一四―一〇―五〇四
電話〇三―三七七九―三一二七

書名にあるように誠に時宜にかなった出版で、著者はあとがきでわが国連合艦隊の圧勝について、「最大の要因は無謀な東洋遠征を策定したロシア政府首脳の誤算であって、この時点においてロ軍の勝敗の帰趨は決していた。」と結んでいる。その後の日本が歩んだ道にも通じる言葉で、近代日本史を知る上での良書と申せます。

《復刻》
海軍戦術
海軍大学講義録
海軍中佐　山屋他人述
編者発行　枝栄会
責任執筆　岩下　秀男

平成一五年に出版され、同窓会報にも紹介した「謙譲の人・海将山屋他人の足跡」に続く本書も、S27E・飯山嘉昭顧問の所属する枝栄会によって発行されました。前書同様、日露海戦における丁字戦法が、山屋他人の発案した戦法によるところが大きいことが海軍大学講義録からみてとれます。本書も、非売品のため、購読希望の会員は、同窓会本部事務局にご連絡下さい。

会員の講演

「源義経　一の谷合戦をめぐって」

S27N　梅村　伸雄

一の谷合戦の「逆（坂）落とし」の場所をめぐり、兵庫歴史研究会会長のS27N・梅村伸雄同窓会副会長と須磨寺正覚院住職の三浦眞厳氏の論戦が、平成一七年二月二六日（土）、生田神社会館・武庫の間で行われました。須磨説を唱える三浦氏と、鵯越説を唱える梅村会員の二時間を超える討論に、会場を埋めた二百人近い歴史愛好家らが聞き入りました。

本討論会は、二月二七日（日）の神戸新聞と産経新聞でも報道されました。

「船長、母校に帰る」

S43N　小林　司

平成一六年一〇月七日（木）、日本郵船（株）船長の小林司会員が、母校の三重県亀山市立亀山西小学校（当時は亀山小学校）で、日本船長協会五〇周年記念事業の一環として、題記の講演をされました。

ビデオを使いながら海運業や船長の役割、海上生活について、四～六年生約一八〇名に話され、海事思想普及に貢献されました。

その模様は、二〇〇四年一〇月一三日の中日新聞（中勢版）で報道されました。

産経新聞
「一の谷合戦」舞台めぐり"熱戦"
須磨説に挑む鵯越説
生田神社会館で公開討論会

平成17年2月27日(日)産経新聞

すくらんぶる
◇船長が母校で講演

平成16年10月13日(水) 中日新聞

神戸新聞
譲らず"一の谷合戦"
須磨・兵庫　両説が持論展開
神戸で討論会

平成17年2月27日(日)神戸新聞

「韓国一周友情ウオーク」で隊長を務める
ひと
西川阿羅漢さん(74)

瑞宝双光章を受けられた西川阿羅漢会員

会員の叙勲

平成一七年春の叙勲において、左記の会員が栄誉を受けられました。会員一同お祝い申しあげます。

○瑞宝双光章

S22E　西川　阿羅漢

海上保安官を永年勤められた功績に対し叙勲されました。

会員の叙勲に際しては、母校図書館が日本海事新聞の購入を中止したため、同窓会本部で情報入手が困難となっていますから、ご本人は無論のこと、知人の叙勲もぜひ本部にご連絡下さい。

また、西川阿羅漢会員は、平成一七年四月一日から五月三一日まで「韓国一周友情ウォーク」の隊長として、韓国一周一、五五〇kmを踏破されました。

出発前の三月二六日（土）の朝日新聞の「ひと」欄にも報道されました。

鳥羽市広報による母校PR

平成一六年度に行われた「鳥羽少年探偵団」の報告が、平成一七年二月一日付の鳥羽市の広報「とば」に三ページに亘り掲載され、母校と近藤真琴先生が市民にクローズアップされました。更に、二月一六日付の広報一、〇九四号にも、「鳥羽商船高等専門学校のみなさん」として、学生の学園生活がカラー写真で大きくとりあげられました。

日頃、何かと学生が鳥羽市民に迷惑をかけ、鳥羽在住の先輩ＯＢから母校にも度々苦言をいただいておりますが、鳥羽市の方々は非常に温かい目で母校と学生を見守っていてくれるとの意を強くしました。

鳥羽市広報　2005年2月16日号

本年四月に設置された「専攻科」についても、広報で報道していただくよう考えております。

卒業生のご遺族の母校訪問

平成一七年四月七日（木）、S16N卒の故・大西金之助氏の実弟で伊勢市在住の大西松蔵氏と実甥・大西利行氏が、故人を偲んで来校されました。故・大西金之助氏は、昭和一八年一一月二三日戦没されており、百周年記念資料館の「太平洋戦争戦没者顕彰銘板」に刻まれた実兄の名を見ながら、戦争中の思い出を語っていかれました。また実甥の大西利行氏は、数年前に行われた練習船「鳥羽丸」における社会人体験航海にも参加されており、案内した中村本部理事と旧交を温めることができました。

会員同士の結婚

左記の会員同士が結婚されました。

新家庭の門出をお祝い申し上げますと共に、お二人の更なるご多幸をお祈り申し上げます。

H9E　竹内　寿参
H10I（旧小川）綾子

会員同士の結婚の場合、会報は新家庭に一部のみ送付し、会費も主人一人のみ納入することになりますから、ぜひ本部事務局にご連絡下さい。

日本郵船(株)の新採用基準

新三級海技士免許取得コースが海技大学校に開設されたことは、前同窓会報（二〇〇四年第二号）に紹介しましたが、それに呼応して、日本郵船（株）が一般の四年制大学等からも外航船の船長・機関長候補を二〇〇六年度から採用することに決定し公表しました。

入社後は、海技大学校と航海訓練所での二～二年半の教育・乗船訓練を行い、ライセンスを取得。

その後、船舶職員として更に乗船経験を積み、船長又は機関長を目指すというものです。

募集の対象となる学歴は、四年制大学、大学院（理系・文系を問わず）と工業高専、商船高専の工業系学科卒業生で、採用人員は船長・機関長候補者各数名ということです。

見方によっては、商船高専・従来の商船大学の商船教育への挑戦とも受け取れますが、会社としては熱意のある人材を幅広く採用し、その後の自社養成には大いに自信があるということなのでしょう。

その背景には、最近の商船系学科を卒業し入社した若者が数年で離職してしまうという実状があるとも聞き及んでいます。

いずれにしても、これからの商船教育を担う商船系大学と商船高専は、技術教育の充実に加え、職業人意識の涵養に大いに努める必要があるといえます。

専攻科の設置

かねてからの懸案でありました専攻科の新設が、平成一七年度から商船五校揃って認可されました。

本校は、商船学科の「海事システム学専攻」が、一〇月入学の定員四名であり、工業系学科の「生産システム工学専攻」は四月入学の定員八名となりました。この定員は、最低確保しなければならない人数であり、平成一七年度「生産システム工学専攻」では本校M科二名、I科八名、鈴鹿工業高専の電子情報工学科一名の合計一一名（本科卒業年は平成一五～一七年に亘る）となり、四月から二年間、「学士」の称号取得を目指して勉学に励むことになりました。

また、「海事システム学専攻」については、本年九月卒業見込のN・E各コース各二名の採用が決定しています。

参考のため、平成一八年度の募集要項を掲載しますが、選抜方法に社会人特別選抜もあり、その場合は面接と所属長から提出された推薦書、調査書及び健康診断書の内容等を総合判定して合否を決定しますから、入学を希望する会員は、母校学生課教務係（電話〇五九九－二五－八〇三二）に問合せて下さい。

平成１８年度　専攻科学生募集要項

Ⅰ　募集人員

海事システム学専攻　　４名
生産システム工学専攻　　８名

Ⅱ　アドミッションポリシー（入学者受入方針）

1．教育目標

本校の専攻科では、基礎となる本科教育の上に高度の専門的学術を教授し、専門領域の幅を拡大するとともに国際的感覚と広い視野を持って、研究・技術開発能力、創造能力を発揮できる実践的専門技術者を育てることが目標です。

2．本校が求める学生像

（海事システム学専攻）

確固たる海事技術を基盤に、多方面に対応しうる柔軟な問題解決能力を持った高度な海事技術者を目指す人。

（生産システム工学専攻）

機械工学、電気電子工学および情報工学の分野における柔軟で人間性に富んだ研究開発型の創造的技術者を目指す人。

Ⅲ　選抜方法

入学者の選抜は、高等専門学校長の推薦による選抜、学力試験による選抜及び社会人特別選抜とし、次のとおり実施します。

選抜区分	海事システム学専攻（選抜試験日）	生産システム工学専攻（選抜試験日）
高等専門学校長の推薦による選抜	平成17年7月25日(月)	平成17年5月21日(土)
学力試験による選抜	平成18年6月24日(土)	平成17年8月20日(土)
社会人特別選抜	平成18年6月24日(土)	平成17年8月20日(土)

支部だより

支部総会開催日

京浜支部　10月28日(金)
静岡支部　12月4日(日)
大阪支部　11月下旬又は12月上旬
神戸支部　10月中旬～11月
九州支部　10月中旬

北海道支部

支部長　桜井　明

今年の北海道は四月に入っても、雪が降ると言った有り様で、除雪作業に例年に無い労働を強いられたと言う思いがしています。昨年から、季節外れの雪に悩まされたり、地震、台風、津波に洪水。酷暑に寒冷、雷に竜巻と異常な自然現象が地球規模で続発しているような気がします。新潟の地震、福岡県の玄海島の地震、など国内の被害もさる事ながら、昨年一二月二六日インドネシア、スマトラ島沖で発生した、巨大津波で三一万人以上の犠牲者を出した地震。これは大変な驚きでした。当初考えられていたよりも、二．五倍も大きなエネルギーを放出していたことが、米ノースウエスタン大学の調査で分かったそうですが、地震規模を示すマグニチュウド（M）は再評価によると九．三となり、一九六〇年のチリ地震（M．九．五）に次いで史上二番目の大きさの地震になると言うことです。

今年四月一日、札幌で積雪八二cmと報道されました。昨年は三cmでしたのでその違いが余りにも大きくて驚かされます。今年の雪祭りは名古屋城を模した雪像がメインで大小の素晴らしい雪像が並びました。期間中約二一九万人の来場者があり、感嘆のため息の内に、第五六回さっぽろ雪祭りは終了しました。国際雪像コンクールは「カナダチーム」が優勝しました。

北海道が沸き立ったヨサコイソーランまつりも六月五日無事終了して、今は杉花粉の対策が始まっております、例年の三〇倍くらいの杉花粉に加えて北海道では白樺の花粉が多いので、逃げ場が無いくらいになりそうです。知床半島の世界遺産登録については色々と紆余曲折は有りましたが、いよいよ7月中に実現しそうな雰囲気になりました。知床の熊はいったいどうなるのでしょう。夏至が来るというのにいまだ気温二〇度以下の涼しい北海道です。

京浜支部

支部長　田中　三郎

京阪支部の皆様お元気ですか。社会全体に変化の大きい昨今でありますが、変化する環境に流されることなく悠々とわが道を歩んでいきたいと思います。

まず、去る六月一二日に母校で開催された同窓会総会において、引き続き京阪支部長の大役をおおせつかりました。微力ではありますが「人のつながり」を大切に、母校そして同窓の皆様のお役に立てるよう取り組んでまいりますので、今後ともご指導・ご協力をよろしくお願い致します。

最近「同窓会へ行こう！」と言う本が評判を呼んでいるそうなので早速購入しました。一般的に同窓会は年寄りの集まりと言うイメージを持ちますが、この本は二〇代・三〇代の若い人達の同窓会参加に焦点を当てているようであり、ハウツーものの内容が多く、イラスト図解も豊富に使われているので、気楽に興味深く読む（眺める）事が出来ました。

他にも、フジテレビの「特捜部」では“今、同窓会がブーム”と言う内容を取り上げたり、インターネットでも「ウエブ同窓会　この指とまれ」というサイトに、我が同窓生二三〇名の方々が登録し様々な情報交換をしていたり、同窓会をコミュニケーションの場として捉える人達が増えたように思えます。

一〇月二八日（金曜日）一八時三〇分より東京駅北口にある「ルビーホール」にて京阪支部総会を開催します。最近の総会には団塊の世代を中心に六〇名ほどの人々が集い、和気藹々の時を過ごしていますので「同窓会はちょっと」と足を遠のけている方々の出席を歓迎します。

静岡支部

支部長　堀　三矢之助

昨年とは一転、空梅雨の暑い日が続きます。各ダムの水位も低くなり、水不足も心配です。また、原油価格もこの九ヶ月で二割も高騰し、県内の暖房用燃料を使う施設園芸は大打撃。運輸業界や、石油製品を多く使う各メーカーも青息吐息です。ガソリンの小売価格も更に先高感があり、ダブルパンチならぬトリプルパンチで我々年金生活者は言うまでもなく、消費者は如何したら良いのでしょう。

こんな世情の中ですが、同窓会員の皆様には御健勝のことと拝察致します。

○平成一六年一二月五日
第一一回静岡支部総会
出席者（敬称略）
同窓会副会長
斉藤　隆
苗村　茂吉（S18－N）
福村　幸平（S18－N）
山下　富三（S19－N）
永田　修一（S22－N）
小林　三郎（S22－E）
鈴木　馨（S22－E）
斎藤　博隆（S23－E）
堀　三矢之助（S26－E）
小林　巽（S28－E）
長澤　実弘（H5－E）

毎回、会を盛り上げて呉れる、佐藤斗一氏、尾鷲綱三氏、の御二方が体調と所用で出席出来なかったのは残念でしたが、斎藤博隆氏の初出席で、少人数ながら盛大且つ有意義な支部総会でした。

○平成一七年三月七日一六年度電子機械及び制御情報工学科卒業証書授与式に出席。

○同窓会創立八〇周年記念総会及び支部長・本部理事会に出席。

静岡支部会員の出席者は五名でした。詳しくは同窓会会報をご参照下さい。

○平成一七年四月現在の静岡支部会員は一一九名です。

※本年度の支部総会は、規程の一二月第一日曜日（本年は四日）場所は何時もの静岡市のクーボール会館の予定です。

名古屋支部

支部長　菅沼　延之

私は八八期航海学科卒の菅沼延之です。

さる、五月二七日の名古屋支部「名鳥会」の定期総会におきまして、竹川前支部長の後任として支部長職を拝命しました。

私が母校を卒業して、早三〇余年の月日がたちましたが、このような形で母校に御恩返しができますことは卒業生の一人として本懐と考えております。

三〇余年間における母校の変遷を思えば、ヒト、モノとも大きく変わり、「変わらないのは朝熊山のみだ」と帰るたびに思っておりますが、お引き受けした以上は、後をふり返らず、この一期二年の間に実行したいことは、まず母校に対しては、

一、母校の「五S」を行っていただく「本当にきたない！」

二、卒業生としては母校は「本籍」にも等しく、いわゆる「見て見ぬふり」はせずに、本部を通して、場合によっては直接、苦言提言を申し入れること

三、母校には一二〇年からの歴史があり、「現住所」にあたる先生方教職員の一時的な方針による学生諸士への対応については、常に改善の申し入れを行うこと

同窓会活動において、

一、当地区での会員名簿の一新、作成にあたっては「何でもかんでも同窓生なら記載する」のではなく、現実に会費を納め、会の趣旨に賛同していただける同窓を対象とし、いわゆる「権利の上にあぐらをかく者これを保護せず」のスタイルで望む

二、定期総会、ゴルフ会を含め、会員どうしの意思疎通を図るとともに、財政の健全化に努める

三、同窓会本部に対しても、地方支部として言うべきことは躊躇せず進言すること

以上を基本的な考えとして活動したいと考えております。

私は就任にあたり、「もの言う支部長としてならお引き受けします」との私の方針に賛同をいただいたうえでお引き受けしましたので、まずはこの二年間よろしくお願い申し上げます。

四日市支部

支部長　中澤　昌信

当支部の今年度の総会は、六月二五日（土）、近鉄四日市駅近くのプラトンホテルで、本部から中村理事のご出席のもと会員三二名で開催しました。

今回は、若い人達と、工業系の同窓生の出席に力を入れて案内したものの、工業系の出席者が残念ながらおらず、今後の同窓会活動の進め方について、本部で課題となっているように、地方においても同じだと、つくづく感じたところです。

次回にもう一度、粘り強くトライしたいと考えております。

役員改選は一部改選でありましたが、今回から「H6N・山下幸恵」と「H12N・楠田亜以」が、

当支部で初めての女性理事に就任されました。

お二人の新しい、創意工夫に満ちたアイデアを反映して、従来と一味違う活動をと期待しております。

今年も、母校学生のカッター巡航に合わせての「ホームステイ（八月六日（土））」が承認されました。昨年は、連続一〇回目でしたが、台風の接近により中止になってしまい悔しい思いをしましたが、今年は、昨年の分を取り返すよう力を入れて歓迎したいと思っております。

八月七日（日）は、四日市港の霞ヶ浦地区で、開催される「四日市みなと祭り」に、鳥羽丸の体験航海・一般公開が、また、恒例のカッターレース大会には、学生諸君が運営に参加されます。

この機会に是非四日市港へ、鳥羽丸へお出かけされることを楽しみにしております。

平成一七年度支部役員

顧問
S16N 今高 光雄
S17N 末崎 弘
S18N 北岡 万二
S21N 中野 清文
S33N 片山 勝則

支部長
S37N 中澤 昌信

副支部長
S37N 山田 岑生
S55N 杉本 忠明
S55N 室 博也

理事
S37N 石垣 三郎
S43N 鈴木 敏行
S56N 谷水 一隆
S60N 笠松 伴
S61N 西井 育央
H2N 待井 健司
H4N 伊藤 英樹
H6N 相良 球一
H6N 山下 幸恵
H12E 楠田 亜以

以上一九名

大阪支部

（前）支部長　奥野　明

昨年は、猛暑、台風、地震と日本列島は大きな自然災害に見舞われ、景気の回復も今一つと言った年でしたが、皆様ご健勝にて御過ごしの事と推察申し上げます。

大阪支部の平成一六年度総会は、一二月四日（土）に忘年会を兼ねて難波「道頓堀ホテル」にて開催されました。本部より会長代理として中村先生にご出席賜り、落合会長殿ご挨拶を始め学校、本部の近況報告を頂戴致しました。

今回は開催日時を例年の日曜日午後より、土曜の晩方に変え様子見しました所、参加者数は三〇名にて前回とさほどの増加を見ませんでしたが、初めて顔を出して下さった方が二～三人居られ、会の雰囲気より今後の参加を大いに期待できる盛り上がりが有り好評でした。

会員連絡状況は、総会案内を四八一通発送し、返信ありが一七二通、参加三〇名でした。欠席の方にもお願いしております支部支援金は（一二月三日現在）計二万円お振込み戴きました。誠に有難う御座いました。今回参加された方は商船学科卒業の人ばかりでしたが、次回からは誘い合わせ他学科卒業生の方も是非ご参加願いたく思います。

さて今回の議事関係ご報告ですが、平成一七年度が役員改選時期に成りますので、支部長、理事（本部理事）候補について皆様にお計りし、下記の通り承認されました。本部総会に提案されます。

新役員候補（本部理事）

新支部長
S42N 藤本 昌之

理事
S48E 岡崎 和清
S52N 岡室 孝美（現理事）
S55N 宮本 一彦
S58N 国安 政幸

＊退任理事2名
S34E 奥野 明
S39N 宮澤 鋭多

支部総会出席者名（敬称略）

本部 中村 武史教員
S33N 菅原 昌男
S34E 奥野 明
S36N 長門谷 宏三
S37N 野尻 進
S42N 藤本 昌之
S43N 小椋 博
S43N 山本 宏一
S43N 坂東 慎二
S43N 北川 哲男
S48E 岡崎 和清
S52N 畑内 康孝
S52N 吉田 篤夫
S52N 岡室 孝美
S53E 坂東 秀樹
S55E 岡本 英次
S55N 山田 晃三
S55N 畠山 光政
S55N 村田 佳久
S56E 碇子 千浩
S56E 米田 昌
S56N 谷口 誠
S58N 柴田 孝則
S58N 国安 政幸
S60N 相田 義輝
H1N 平賀 正泰
H1N 坂東 栄俊
H3N 井上 顕真
H5N 三村 純一
H8N 西村 孝一
H12N 西村 和展

（追伸）

（新）支部長　藤本　昌之

大阪支部におきましては、六月二日に幹事会を開催し、支部役員の交代の確認及び一七年度支部総会の概要を決定いたしました。

支部総会は一一月下旬又は一二月上旬に、夕方から約二時間、大阪水上バス（株）クルーズ船「サンタマリア」船上で開催します。

航海をすると遅れてきた参加者が乗れないので、停泊中の開催も検討しています。支部会員には詳細を後日案内状にてご連絡します。

大阪以外の支部の方でも結構ですので、大阪支部のホームページでご確認いただき、是非ご参加ください。

http://www.geocities.jp/tobashousenkinpokai/

多数のアクセス、お待ちしております。

神戸支部

支部長　奥 正夫

地球規模の温暖化が言われる昨今の気象状況の中で、その影響は如実に神戸港を取り巻く当地方にも現出し、梅雨の時期に入っている日々の温度変化をみると、最高・最低気温共に殆どが平年比プラス～二度で、それも最低気温の上昇具合が目につきます。

六甲山系とその周辺の山々の緑を抱えたこの地方でさえこの体たらくだから、巨大ヒート・アイランドを抱えた東京や大阪での今年の真夏の凄さは想像を絶するとも言えそう。因みにエアコン設備のない我家では今年の八月は心配です。

"皆さんノーカー、不要物のリサイクル、リユース、レデュースに心掛けましょう"

このところは、いつも五月頃に支部総会を開いていた神戸支部ですが、本年は六月の記念総会の由もあって、秋に開催としました。一〇月中旬から一一月中に開催を考えてますが、支部会員諸兄姉に

は八月早々にご案内させて頂きますので、もう暫くお待ち下さい。

神鳥会ゴルフの方は、三月に垂水ゴルフで本年度最初（通算一〇五回目）のコンペを持ちました。出席者は九名。優勝はS49E・渡邊義春さん、二位はS30N・江頭さんで、次回は九月末の予定です。

次いで当支部よりのトピック・ニュースです。同窓会副会長のS27N・梅村伸雄さんの義経研究の成果を盛った劇画風絵物語「義経、一の谷合戦における鵯越の逆落とし」が、URL：http://www.Geocities.Jp/s9y5n8n で楽しんで頂けます。皆さん是非一度覗いて見て下さい。神戸港に親しまれた同窓の皆様なら、お楽しみ頂ける事請け合いです。

九州支部

支部長　福岡　健彦

六月上旬の入梅以来、九州北部では全く雨の降らない日が続いております。

ここ長崎県でもいまだに田植えが出来ず、今年は米作りを断念する農家も出てきており、深刻な水不足が懸念されております。

過日母校にて開催されました同窓会創立八〇周年記念総会の席上で「専攻科設置決定」との御報告を頂きました。この件につきましては、以前から非常に厳しい状況にあると認識しておりましたので、本当に良かったと思いました。実現に向けて東奔西走、大変御苦労された会長はじめ関係された方々に心からお礼申し上げます。

また祝賀会では、卒業以来はじめてお会いする方々とも歓談出来、ジャズバンドの演奏や大変迫力のある「九鬼水軍太鼓」の演奏など楽しいひと時を過ごさせて頂きました。

祝賀会の様子を支部総会で皆様にも伝えたいと思っております。会場で収録したビデオを支部にも頒布して頂ければ大変有難いのですが・・・・何卒御高配のほどお願い申し上げます。

さて今年度の九州支部総会は、現役の方々の希望もあって、例年より一ヶ月繰り上げて一〇月半ばに懇親会と併せて実施しようと考えております。ゴルフもどうかという意見もあり、より一層親睦を深める為、土曜日の朝からゴルフ、夕方から一泊の総会、懇親会で計画し、楽しいものにしようと思っております。

最後に活動報告に代えて長崎の近況を一つ御紹介致します。

数年前から建設が進められていた長崎港入口の架橋工事が、四月に橋桁閉合されました。全長七〇〇メートル程の斜張橋で「女神大橋」と名付けられております。今年度中には車の通行も可能になります。有料ではありますが、普通車で一〇〇円と利用し易い金額に設定されており、通勤道路、産業道路として期待されております。

女神大橋

本部・伊勢志摩支部

本部・伊勢志摩支部事務局

☆森　良雄会員送別会

平成一七年三月一四日（月）、伊勢市曽祢の懐石料理店「花菖蒲」において、母校商船学科教員を六年間勤められた森良雄会員の本部事務局の送別会が開催されました。

落合会長の慰労の挨拶に始まり、森会員の答礼と乾杯の後は、学生時代の思い出から母校の現状まで半世紀以上の時代をめぐる話題で二時間あまりを楽しく歓談しました。

本部事務局員が二名減（出江会員は四月から北海道大学に内地留学）となり、その分、各員の事務量が増加しますが、協力しながら本部事務局を維持していく決意を新たにした一夜でもありました。

出席者は、落合会長以下森・中村・世宮・竹内・鈴木・出江理事の七名で、江崎会員は所用で欠席しました。

森良雄会員送別会記念撮影

クラス会

六三期クラス会

S21E　久保田　幸男

平成一七年四月四日、五日、一泊二日のクラス会を、中部地区の同級生の担当で、犬山城下の犬山名鉄グランドホテルで開催しました。

桜の名所も今年は開花がちょっと遅れ、三分咲き。それでも気持ちは花見気分いっぱいでした。宴会前に、犬山城を登る人、木曽川の堤を散歩する人と、春の自然を楽しみました。

関東や、関西の同級生、そして北九州からも参加があり、二一名の同級生とご同伴の奥様二人の参加を頂き、計二三人の宴会でした。

私達の在学中は、昭和一八年から二一年の戦中、戦後にかけての時代ですので、その話題には事欠きません。時間のたつのも忘れ大いに盛上がり、口角泡の飛び交ふ程の親交ぶりでした。

二次会は、勿論、部屋を変え、全員参加で、雰囲気を変え、カラオケ、詩吟、民謡がつぎつぎと出て、楽しさ一入でした。

後半に歌詞カードを配り、校歌、寮歌、白菊の歌等々、嘗ての紅顔可憐な海の若人が声を枯らし、目に涙して、歌う。面々には、あの三年間寝食を共にした時の想いが、走馬燈の絵の如く、脳裏をよぎった事でしょう。夜の更けるのも忘れ、楽しみました。

翌朝一〇時にマイクロバスにて、犬山成田さんを参拝し、つづいて明治村の古きよき時代の厂史的な建物や、当時の人情、風情、ファッション等に触れ、往時を味はいました。

村内の食堂で昼食をとり、再びバスの人となり、午後三時頃、名古屋駅で、健康での再会を約束しながら、三々五々、別れの途につきました。

八〇年近い人生を生きてきて、あの時代の三年間、寝食を共にした友との出来事が蘇った楽しい時間でした。今年、運悪く参加出来なかった同級生の方々、次回は関東での開催を予定しています。是非、万障繰合せの上、ご参加下さい。必ず人生の一ページとして意義のある時間になると思います。

参加者氏名

E浅井　五六　N荒巻　武郎
N磯貝　禮次郎　N井上　三二
N梶山　一郎　N加藤　富士雄
N川村喜一郎　E神戸幸雄
E久保田　幸男　N小橋　烝治
E島上　健　N清水　芳美
N高橋　清吉　N出口　光彦
N野村　弥　N長谷川　好道
N林　幸雄　N広瀬　春雄
E細井　良一　N松本　昭一郎
N丸山　末夫　井上　三二奥様　広瀬　春雄奥様
以上二三名

昭和三〇年卒クラス会

S30E　古川　昭一

同窓会創立八〇周年記念総会も終わり、慶賀に絶えません。

我々のクラス会も卒業五〇年と区切りの年、同窓会総会終了後に久しぶりに鳥羽「錦海楼」で行いました。

「鳥羽国際ホテル」で行われた祝賀会には、七名が参加し同窓との旧交を暖め、九鬼水軍太鼓・ジャズ演奏を楽しみ、素晴らしい料理を楽しみました。

その後、「錦海楼」に場所を移し、三々五々、急遽欠席となった二名を除いて二七名（N七名E二〇名）が集まりました。例年より少し参加者が減ったとの感じがありましたが、八年ぶり一〇年ぶりの参加者もあり宴席が盛り上がると言うより話が盛り上がり、宴会時間の超過にも気が付かないほどでした。その後は部屋で話の続きや、中には鳥羽の町の探訪に出掛けた者もいましたが、昔の話の収穫は無かったようです。

翌一三日は、朝食後来年の再会を約し、ゴルフ組（一三名）と観光組（一四名）に別れ、観光組はそれぞれの目的地に出発、ゴルフ組は三重県中勢地区の名門「伊勢カントリークラブ」で、素晴らしいフェアウエーと難しいグリーンに挑戦し天気も恵まれましたが、スコアはママならずでした。気持ちの良い一日を過ごし、秋のゴルフ集会を約して散会しました。

昭和31年卒N・E合同クラス

S31N　桑嶋　収平

鳥羽商船同窓会八五周年記念の前日を利用して、去る六月一一日（土）に鳥羽市内の「かんぽの宿」で、昭和31年に卒業して以来、初めての航海・機関科合同クラス会を行いました。

当日は、昼前後より激しい雨が降り、会場にはそれぞれ雨宿りをしながら予定の一三名が集合しました。航機専攻科卒業後では四七年ぶりで、中には初めて再開の学友もあり、長い空白期間の記憶をたどりました。懐かしい笑い顔が、それぞれ想いで遠くから駆けつけてくれ、その同志の心意気が本当に嬉しく思われました。卒業後、既に一〇名の方が亡くなられた事も判明し、本当に寂しい思いでしたが、全員で一分間黙祷し、昔をしのびました。もともと小さい所帯のクラスで、しかも全員寮生活経験者ばかりなので、年はとっても気持ちは当時と同じで、遅くまでわいわいと本当に楽しい時間を持つことが出来ました。

翌一二日は快晴、朝には各自思い思いの予定もあり、次の機会の再会を誓って散会しました。

参加者

荒井、来栖、坪田、山田、柳谷、森嶋（彪）渡辺（明）、桑嶋乾、上ノ郷、斉藤（従）、真鍋松尾、
以上一三名

七四期クラス会

S32N　大澤　則義

六月一二日同窓会創立八〇周年記念行事に併せてクラス会を行なおうと提案があり、前日の一一日鳥羽ビューホテルに於いて久しぶりのクラス会を開催しました。前回は平成一二年六月二四日神戸にて開催されました。五年振りに集まることで何名集うか？前回は八名でした。

今回は次の一九名の皆さんが集いました。石黒宏展、梅田丈二、大江勲、大澤則義、大島秀也、大橋厚生、岡久志、奥正夫、河原幸男、小出政夫、郷原邦昌、近藤賢志、正元弘三、高城護、辻　裕、戸川義郎、中尾益三、荻原勝芳、平岡靖敏

卒業以来初めて会う人も有り、又久しぶりに会う人も有り、それぞれに旧交を温めました。何しろ長い空白があるので紅顔の美少年（？）が玉手箱を開けたのと同じく髪の毛が白かったり、薄くなったり・・と、暫くしないと昔のイメージがわいてきませんでした。会食後は席を替えてカラオケに興じながら夜の更けるまで近況等を話し合いました。

次回クラス会は古希の二年後にしようかとの提案があります。

学校だより

（平成一六年一二月～平成一七年六月）

◎講演会

・一二月一日（水）、秋季講演会として講師に「二見浦・賓日館の会」事務局長（元宇宙科学研究所）林　紀幸氏をお招きして三・四年生を対象に「宇宙開発と人間」の講演をしていただきました。

林氏は、宇治山田商工高（現伊勢工業高校）卒業後、東京大学生産技術研究所に入所され、ロケット開発の第一人者である故糸川英生氏に師事され、技術者として四〇〇機を越えるロケット打ち上げに携われましたが、人間にチームワークの重要さをテーマに、ペンシルロケットの実物三本とビデオ映写を交えて熱く話されました。

・二月一七日（木）、三重県生活部雇用・能力開発室主査の西村隆夫氏他お二人をお招きして、四年生を対象に「平成一七年度の就職活動について」話していただき、模擬面接を各科一名にしていただきました。

・五月二五日（水）と六月一日（水）の両日、春季講演会として南勢志摩県民局・保健福祉部・専門監の山口節子氏をお迎えして、「こころの健康づくり」の演題で一・二年生を対象に講演していただきました。

学校生活でのストレスを解消する技法として、自己診断により自分の長所を確認し、自尊感情を高める「心の交流分析」を、演習を交えて解りやすく説明していただきました。

◎リーダーストレーニング

本年のリーダーストレーニングは、クラブ関係と学生会の二部門に分けて、本校で行いました。

クラブ関係は、一二月一一日（土）午前に本校体育担当の山田教員が二五名のクラブ代表者を指導し、一六年度のクラブ活動の反省と来年度の予算配布の提案をしました。午後は、以前本校教官であった皇學館大学の小木曽一之助教授をお招きして、「理論に裏打ちされたクラブ活動～その取り組み方について～」の講義と実技指導を受けました。

学生会関係は、一二月一七日（金）、一六年度に行った体育祭・カッター大会、海学祭の反省会を催し、参加した学生会役員や海学祭実行委員は次年度の行事の充実を計るべく討議し、最後はバイキング方式の食事をとって親睦を深めました。

◎体育大会

・一二月一八日（土）、第一〇回鳥羽商船杯争奪中学校バドミントン大会が本校第二体育館で実施されました。

近隣の中学校男子五校九チーム、女子九校一八チームが参加して熱戦が繰り広げられ、男子団体は小俣中学×、女子団体は倉田山中学Aが優勝しました。本校一・二年生のバドミントン部員も試合に特別参加したりして交流を図りました。

・一月一五・一六日に岐阜県大野郡丹生川村朴の大平スキー場で、第五四回全国高等学校スキー大会三重県予選会、第六〇回冬季国体三重県予選会が開催されました。

本校I1・上村せり奈さんがアルペンで競技に出場し、一五日の大回転競技で三位、一六日の回転競技で二位に入賞しました。

この結果、二月に行われた全国高校総体（群馬県）、冬期国体（岩手県）に出場しましたが、一一位と完走できずの成績となりました。落合会長からは、出場に際して、金五千円の褒賞金が授与されました。

・四月三〇日（土）に開催された三重県高校相撲選手権大会に出場したI2・柴原陽介君が個人戦の重量級で優勝しました。

また団対戦では、M2・柴原巨貴君とS2・土屋辰之君の三名が出場し、三位となったため第八九回高等学校相撲金沢大会への出場権を獲得しました。

五月二九日（日）に開催された金沢大会では、残念ながら団体戦三試合で勝利をあげることはできませんでした。

六月四日（土）、宇治山田商業相撲場で三重県高校総体が開催され、団体戦に出場したM2・柴原巨貴、S2・土屋辰之、I2・柴原陽介、清水拓磨の四君が準優勝となり、八月一五日に青森県で開催される選抜高校相撲十和田大会への出場が決定しました。落合会長から四名に対し、褒賞金五千円が授与されました。

また、個人戦ではI2柴原陽介君が三位となり、八月二日～四日に千葉県木更津で開催されるインターハイに出場することになりました。

・五月に九日（日）伊勢湾海洋スポーツセンター沖でヨット三重県団体予選が行われ、SN3田中悠太・M3世古貴大組がFJ級出場七級の中で優勝し、九月八日～一三日に開催される岡山国体夏期大会に出場することになりました。二人に対し、落合会長から褒賞金五千円が授与されました。

◎入学試験

平成一七年度新入生の入学学力検査が、二月二〇日（日）、本校・東京・名古屋・大阪の四ヶ所で実施されました。

今年の志願者数は、二九三名と昨年並みで、一月二八日（金）に決定している推薦入学合格者五一名を差し引くと、学力での倍率は三・七倍となりました。しかし、学力上位合格者の大半が公立高校に合格すれば本校を辞退するため、合格者を何名にするかが大変難しく、辞退者が少なかった本年は、入学者は定員をオーバーする結果となりました。

◎各種催しへの出展

・五月二〇日（金）～二一日（土）、第三回「三重の二一世紀リーディング産業展」が四日市ドームで開催されました。

一九八社二八四ブースの出展がある中、本校からは大学や高専などが研究成果を出展する「研究・支援・公的機関」の分野にM科外山教員とI科江崎・北原教員及び生産システム工学専攻科生五名が参加し、次の展示を行いました。

「視覚障害者のための環境内文字読上げシステムの紹介と文字抽出のデモンストレーション」「響ー吹奏楽上達支援システムーの展示」「高専ロボットコンテストによる教育・研究活動の紹介」

・五月一六日（月）九月八日（木）にかけ、「ベンチャー講座」が八回、本校「潮騒会館」で開講されます。

本講座では、ベンチャー経営者や各専門家から、企業経営、経営戦略等、ベンチャービジネスについての講義を無料で受講できます。

三回目（六月一三日）と六回目（七月二五日）は本校G科宮林助教授が「ベンチャービジネス論」と「アイデアの管理」を、四回目（六月二七日）は、（株）アイズ取締役のH10I・大谷謙勝氏が「ベンチャー企業家の声Ⅲ（卒業生から）」を講演予定でしたが、体調不良のため延期となりました。

◎各種コンテストへの出展

・第一二回衛星設計コンテスト

一〇月二四日（日）東京都立航空工業高専で開催され、S科伊藤教授指導のS・M・I科五年生四名の「無重力下で製造する宇宙基地閉断熱材の提案」が、アイデアの部で「日本宇宙フォーラム賞」を受賞しました。

・スターリングテクノラリー

一一月二〇日（土）日本工業大学で開催され、M科廣地教授指導のM5学生三名が、人間乗車部門の「アイデア賞銀賞」を受賞しました。

・全国高等学校IT・簿記選手権大会

昨年七月一八日（日）と八月六日（金）に行われ、I科出江教員指導のI3七名・I2六名の学生が、本大会の団体戦で準優勝し、新人戦の団体戦でも準優勝しました。

◎卒業式

三月七日（月）、平成一六年度M・I科卒業証書授与式が大二体育館で挙行され、M科二五名、I科三六名が晴れて卒業しました。

進路先は、M科については就職が一八名、進学が七名（大学五名・専門学校一名・本校専攻科一名）で、I科については就職が一三名、進学が一三名（大学四名・専門学校三名・本校専攻科五名・一名は帰国）となりました。

式後、恒例の卒業祝賀パーティが第一体育館で催され、来賓・保護者・教職員が卒業生の巣立ちをシャンパンで祝福しました。

◎三つの入学式

・四月七日（木）、編入学生・留学生入学式が校長室で行われました。編入学生は、大阪市立都島工業高校・機械電気科を卒業した鳥山大努志君がM科四年生に編入しました。

留学生は、マレーシアからムハンマド　タリック　ビン　ノールアズミ君がM科三年に、またモンゴルからビレクサイハシ　ニャムツェレン君がI科三年に入学しました。

・四月一一日（月）入学式が第二体育館で挙行され、S科に四八名（うち女子九名）、M科に四六名（うち女子一名）、I科に四五名（うち女子一六名）の計一三九名の新入生を迎えました。

・四月一二日（火）、本年度新設された専攻科（生産システム工学専攻）の入学式が百周年記念資料館二階大会議室で挙行され、一期生の一一名（うち女子二名）が入学しました。専攻科生は、新校舎が建築されるまで、暁寮B等で勉学に励むことになりました。

◎新入生オリエンテーション

四月二一日（木）～二二日（金）、晴天に恵まれ、奈良県の（独）国立曽爾少年自然の家で実施されました。

新入生一三九名は、二・七kmの亀山コースのハイキング、校長・学生主事の訓話、班別と全体会議を通して、学生生活全般の基本的ルールを学び、同級生との交流を計りました。

◎体育祭

五月一九日（木）M5・大西弘将実行委員長の下、四四名の実行委員が企画した体育祭が行われました。

「翔戦」と名付けられた体育祭で、一六種目の競技を行い、学生・教職員共々。この一日多いに親睦を深めることができました。

◎構内禁煙

嫌煙箱の伸展により、学校も遅蒔きながら六月一日（水）から指定された場所以外は、構内全面禁煙となりました。

指定場所は、校舎については百周年記念資料館一階管理室、学寮は教員当直室、鳥羽丸はメスルームの三カ所となりました。

常日頃から、学生に禁煙を指導していることからすれば、当然の措置と申せます。

◎クリーンキャンパス活動

六月三日（金）、同窓会落合会長が手配された済美学園による近藤翁記念碑周辺の除草が行われました。

また、同窓会創立八〇周年記念行事の一つである慰霊・合祀祭を行う為、記念碑周辺の会員による植樹（平成四年実施）と名札の再整備を落合会長が中央庭園土木（株）に依頼され、美観を整えました。六月八日（水）、教職員による構内全域の草刈りが午後三時から約二時間実施されました。

六月一五日（水）、午後三時から約一時間、一～三年の学生と教員が参加して、学内と学校周辺のゴミ拾いが実施されました。

◎新任教員と退職教員

◎新任教員

・山田　猛敏校長

昭和三九年九月、東京商船大学航海学科を卒業後、教官として大学に残り、昭和六一年一〇月に教授。平成一五年一〇月に東京海洋大学海洋工学部教授となられ、本年四月に本校校長に就任。

・鎌田　巧一教員（5科助手）

平成一七年三月、東京商船大学大学院商船学研究科を修了、同年四月に本校に校任。

・藤井　正光教員（M科助手）

平成一七年三月、徳島大学大学院工学研究科を修了、四月に就任。

・坂牧　孝規教員（I科助教授）

平成四年三月、東京電機大学大学院理工学研究科を単位修得退学され、日本光電（株）に入社。

平成一五年一月、東京電機大学理工学部の研究員となられ、本年四月に本校に就任。

・西川　雅堂教員（G科助教授）

平成一〇年三月、早稲田大学大学院理工学研究科を修了。平成一四年四月に同大学理工学部助手となられ、本年四月に本校に就任。

◎退職教員

・佐藤　修臣校長

昭和三六年九月、東京商船大学航海科を卒業後、航海訓練所に入所され一二年間勤務。昭和四八年一〇月に東京商船大学商船学部助教授として転任、昭和五九年四月に教授、その後、附属練習船汐路丸船長や図書館長を歴任後、平成一二年四月本校校長として就任。五年間の校長としての実績は、本人の退任の挨拶に詳細記述あり。

・原田　秀己教員

昭和四一年三月、静岡大学工学部電気工学科を卒業後、鈴鹿工業高専に四年間勤務の後、本校に就任。以来三五年間、平成六年一月にM科教授に就任後、学生主事・教務主事を歴任。本年三月、定年まで一年を残して退職されましたが、非常勤講師として引き続き勤務されます。

・森　良雄教員

ウェルカムドリンク

会長挨拶

鏡割り

乾杯

九鬼水軍太鼓

ジャズバンド演奏

会員談笑風景